

Business Report ビジネスレポート

事業活動のご案内

(2011年4月1日>>>2012年3月31日)

目 次

ごあいさつ	1
第70期決算の状況	2
トップインタビュー	3
いちよしの成長戦略	5
関係会社の紹介	8
いちよしのCSR	9
会社概要	10



取締役(兼)
代表執行役社長
山崎 泰明

私たちには、今、大切にしている合言葉があります。
それは、「今までの日本にない証券会社をつくろう」
です。

当社は、「お客様に信頼され、選ばれる企業であり続ける」ことを念頭に、信頼関係を基本とし皆様方とともに成長する企業を目指して参ります。

具体的には、お客様目線に立ったアドバイス活動を大切にしていきたいということです。

その1つ目は、お客様の資産を大切に考える思いを「いちよし基準」とし10数年来守り続けております。「売れる商品でも、売らない信念。」これが私たちのお客様の期待に応える商品選びの考え方です。

2つ目は、地域の皆様方と密接なご関係をいただき、これまで以上の強い信頼をしていただくために、地域に根付きお客様とともに成長する企業を目指します。以前より店舗のある地域はもちろんのこと、地方の証券会社との提携や経営統合を通じて、信頼の輪を広げて参ります。

お客様とともに当社も大きな成長を収めることが可能であると信じ、これからも役職員一同、一丸となり邁進して参ります。今後ともご支援・ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。

フレド

経営理念

お客様に信頼され、選ばれる企業であり続ける

経営目標

金融・証券界のブランド・ブティックハウス

行動指針

感謝 誠実 勇気 迅速 継続

Long Term Good Relation

社員のために

社員の個性を尊重し
人材の育成に努める

いちよし精神

情熱をもって、真摯に努力し続けます。

働きがい

チームワークを重視し、社員の能力・創造性を活かした自由闊達な企業風土を構築します。

株主のために

持続的な業績向上を図り
企業価値の増大に努める

株主還元

事業の収益性と財務の健全性を高め、株主への利益還元を図ります。

情報の開示

経営の透明性を確保するために、情報を適切に開示し、IR活動に努めます。

お客様のために

一人、一人の
『いちばん』でありたい

お客様第一

常に、お客様の立場に立ち、まごころを込めて、アドバイスをいたします。

良質なサービス

社会や市場の変化に対応し、質の高い商品やサービスを提供します。

社会のために

金融・証券市場の担い手として
社会の発展に貢献する

社会的責任

法令・諸規則を遵守し、高い倫理観をもって行動します。

社会貢献

企業活動を通じて地域社会と証券市場の発展に貢献します。

第70期決算の状況

財務ハイライト(連結)

営業収益
144億7百万円
(前期比10%増)

経常利益
△1億36百万円
(前期比—)

当期純利益
△2億22百万円
(前期比—)

預り資産
1兆2,744億円
(前期末比5.4%減)

当連結会計年度(以下、当期)は、東日本大震災の発生、米中などの世界的な景気減速懸念や欧州債務危機の深刻化、タイの大洪水など、国内外で世界の経済や金融市場を揺るがす問題が多数発生しました。外国為替市場においてもドル及びユーロに対して年度の半ばにかけて急速に円高が進行し、日本経済や企業業績に与える影響への懸念も高まりましたが、年明け2月の日銀による追加金融緩和などにより流れが変わりました。

国内の株式市場は、昨年3月の東日本大震災により寸断された供給網の復旧等による国内景気の回復期待から、日経平均株価は7月8日には10,207円の高値を付けました。その後は欧州債務危機の深刻化などから調整に転じ、日経平均株価は11月25日に昨年3月の震災後安値を割り込み8,135円を記録しました。その後、年末の欧州中央銀行(ECB)による3年物資金供給オペ(LTRO)による大量の資金供給を契機として欧州債務危機への不安が和らぎ世界の株式市場が回復に転じたのと歩調をあわせて日経平均株価も上昇に転じました。こうしたなか、2月14日の日銀金融政策決定会合で決めた追加金融緩和と、物価上昇率1%を目指す実質的なインフレターゲットの導入をきっかけに、円安・株高に大きく流れが転換しました。3月27日には、日経平均株価が10,255円と、震災後高値を更新し、期末は10,083円と、2年ぶりに1万円の大台を回復して期末を迎えました。

当社が得意とする新興市場では、代表的な指標である日経ジャスダック平均株価が7月に付けた震災後高値以降の調整局面を経て11月下旬を底に反発に転じました。年度末に近い3月21日には日経ジャスダック平均株価が1,395円と昨年来高値を更新し、期末は1,370円で終わりました。

当期における東証一日平均売買代金は前期比16.0%減の1兆3,049億円、大証ジャスダック市場一日平均売買代金は

同5.8%減の197億円となりました。

また、当社は従来よりの「HSBCニューリーダーズ・ソブリン・オープン」をはじめ、「メロン世界新興国ソブリン・ファンド」、「DWSグローバル公益債券ファンド(毎月分配型)Aコース」、1月より取り扱いを開始した「BAMワールド・ボンド&カレンシー・ファンド(愛称:ウィンドミル)」といった投資信託をお客様の安定的な資産(ベース資産)として位置づけ、販売に注力して参りました。

一方、流通市場での活発なエクイティ営業、及び東日本の復興事業を担う企業に投資するファンド「東日本復興応援株式ファンド(愛称:ニッポンの絆)」の設定、並びに既公開企業の公募増資引受業務において主幹事2社を獲得するなど、積極的に中小型・新興企業に特化したビジネスに取り組んで参りました。

その結果、当社グループの純営業収益は143億40百万円となりました。一方、販売費・一般管理費は144億57百万円となり、経常損失は1億36百万円となりました。

また、当期末の預り資産は、1兆2,744億円(前期末比5.4%減)となりました。

■利益配分に関する基本方針及び当期の配当

当社は、株主の皆様への適切な利益還元を経営の最重要課題の一つとして位置付けております。

配当を継続して充実させていくことを目的として、配当性向(40%程度)と純資産配当率(4%程度)を配当基準とし、算出された金額について、いずれか高いものを採用して配当金を決定しております。なお、純資産配当率の水準については、半期毎に見直すこととしております。

以上の配当方針に基づき、当期の1株当たりの配当金は純資産配当率(4%程度)を採用し、中間配当10円、期末配当10円の合計20円とさせていただきます。



「揺るがぬ軸」と「柔軟性」を
合言葉にお客様に信頼される
証券会社を目指します。

取締役(兼)代表執行役社長
山崎 泰明

Q いちよし証券の経営戦略、 特色について教えてください。

当社のブランド・ブティックハウス戦略には2本の柱があります。「個人富裕層の金融資産運用サービス特化」と「中小型株と中堅企業ニーズ対応サービス特化」です。

個人のお客様に対しては、投資信託を軸とした資産運用を提案しています。その際に大切なことは、お客様のリスク許容度に合った商品を提案すること。いくら人気が高くても、リスクが高く、仕組みが複雑な商品は販売しません。お客様に安心して投資していただくことで、「貯蓄から投資へ」の動きを後押しすることが証券会社の使命だと考えています。

中堅・中小企業に対する取り組みでは、中小型株の運用、株式の引受、中堅企業のリサーチをすべてグループ内で行っているのが大きな特徴です。これまでに29社の主幹事獲得実績があります。今後も新興企業のインキュベーターとして、日本経済の発展を支えていきたいと思っています。

Q 「ベース資産」とはどのようなものか 具体的に教えてください。

低金利でリターンが低い預貯金に代わる受け皿として、債券型中心の投資信託を「ベース資産」と位置づけています。

2011年は円高のために外貨建て資産が大きく目

減りし、外債に対する抵抗感が高まったため、為替ヘッジありの商品を「ベース資産」に加えました。一方で、将来の円安への期待感から外債の運用に前向きな方のために、為替ヘッジの有無を市場のトレンドを見て変動させる「BAMワールド・ボンド&カレンシー・ファンド(愛称:ウィンドミル)」を、2012年1月に新たに追加しました。現在、「ベース資産」の投資信託は9商品あります。この「ベース資産」は、大きなリスクを伴う高分配金を目指すのではなく、安定的な分配金を目標にしています。

オーソドックスな構造の投資信託は手数料が低く、販売会社にとって短期的な利益が得られにくいのは事実です。しかし長い目で見れば、「貯蓄から投資へ」の考え方に沿っており、当社が「ベース資産」として提案するに相応しいシンプルなお商品だと考えます。安易に流行に乗るのではなく、お客様のリスク許容度に合わせた商品を地道にお勧めすることが、お互いにとって長期的な利益につながると信じて、「売れる商品でも、売らない信念。」をスローガンにしています。

Q 東日本大震災からの復興に向けた具体的な取り組みを教えてください。

当社では、2011年11月に「東日本復興応援株式ファンド(愛称:ニッポンの絆)」という投資信託の販売を始めました。被災地域の復興への貢献が期待される中小型株式を投資対象とし、いちよしアセットマ

ネジメントがマザーファンドの運用に参加しています。当社をはじめ地銀を含む9社で販売しています。基準価額は3月末現在で11,403円、純資産は129億円と、順調なスタートを切ることができました。当面の目標は純資産200億円です。

この商品を通じて、震災の復興と新産業の振興を応援し、株式市場のさらなる活性化を目指していきます。

Q 今後のビジネスの取り組み、施策について教えてください。

「揺るがぬ軸」と「柔軟性」をスローガンに、4月以降もこれまでと変わらず、ブランド・ブティックハウス戦略の2本の柱を軸としたビジネスを継続していきます。一方、市場の変化に合わせて新しい株式や投資信託を提案するなど、柔軟な発想力と対応力を強化し、お客様に信頼される証券会社を目指します。

この2年間、地方証券との提携に力を入れてきました。2012年2月の伊勢証券との経営統合もその一環です。都市部より郊外の方が、個々のお客様と向き合うには適していると考えており、地域のお客様により密着したサービスを提供するためにターミナル店の「分支店化」も進めているところです。

株式市場の回復に伴い、新興企業の勃興が期待されます。私たちも新しい企業とともにさらに成長していければと思います。

いちよしの成長戦略

—新中期経営計画の概要—

当社は、従来より取り組んできた金融の「ブランド・ブティックハウス」の土台をより強固なものにするために、2012年3月末をターゲットとした中期経営計画に取り組んで参りました。しかしながら、世界的な景気減速懸念や欧州債務問題、東日本大震災の復旧の停滞等、国内外で世界の経済や金融市場を揺るがす問題が多数発生したことによ

り、中期経営計画は満足できる水準には至りませんでした。

このような経営環境の中、本年4月よりスタートした新体制の下、役職員一同、一丸となり従来の中期経営計画の数値目標を再度チャレンジする計画期間を2年間とする新中期経営計画「リカバリー・チャレンジ」を策定いたしました。

「リカバリー・チャレンジ」

ブランド・ブティックハウス戦略の2本の柱

- 「個人富裕層の金融資産運用サービス特化」
- 「中小型株と中堅企業ニーズ対応サービス特化」

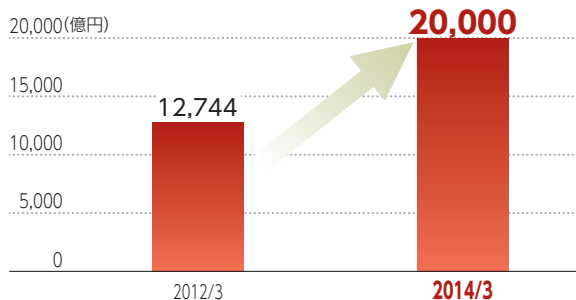
数値目標（計画期間：2012年4月～2014年3月末）

●預り資産 2兆円 ●主幹事 35社 ●ROE 10%程度

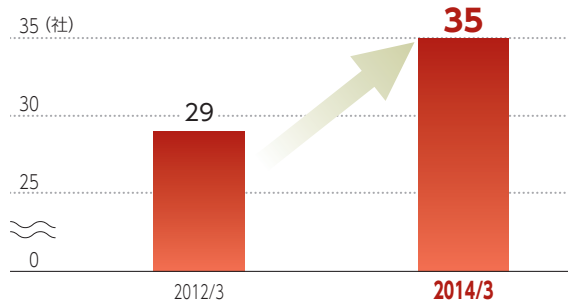
■8つの基本戦略

- ①「いちよしフレド」徹底の実行
- ②営業基盤の拡大
- ③収支構造の改善の継続
- ④既存ビジネスの収益力の厚み増加
- ⑤いちよしグループの総合力アップ
- ⑥コンプライアンスの実践
- ⑦チャネルの多様化
- ⑧人材の育成

預り資産



主幹事会社数



店舗戦略

当社は、新中期経営計画のひとつに、成長戦略の一環としての「チャネルの多様化」を挙げ、経営理念や販売戦略を共有できる地方証券とのネットワーク構築を図っております。これまで、2010年4月12日に環証券（和歌山県新宮市）と合併を行い、2010年10月28日に大北証券（岩手県盛岡市）へ資本参加いたしました。また、2011年1月4日に飯田証券（長野県飯田市）および佐世保健証券（長崎県佐世保市）と、2012年2月6日には伊勢証券（三重県伊勢市）と合併を行い、地元密着の事業展開を図っております。

当期の当社店舗数は42店舗から46店舗となりました。今後、多くの地域社会とのつながりを広げていくことによって、より多くのお客様に「いちよし基準」を提供し、「お客様に信頼され、選ばれる企業であり続ける」よう努めてまいります。

地方証券とのネットワーク



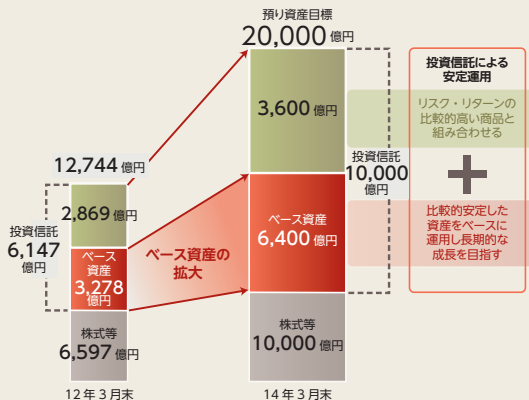
商品戦略

当社は、お客様の金融資産の持続的な成長を目指し、ソブリン債券等を投資対象とするローリスクの毎月分配型投資信託を「ベース資産」と位置づけております。

安定的資産「ベース資産」を中心に、お客様の投資の目的やリスクの許容度に合わせ、お客様一人、一人に合わせた総合的な金融資産の組合せのご提案に努めてまいります。また、運用期間中に定期的な情報提供を行うなど、きめ細やかなアフターフォローを心がけております。

当社はこのような商品戦略を採用することで、お客様資産の持続的な成長と安定的な経営モデルを構築し、市況の影響を受けにくい収益構造を構築することを目指しております。

新中期経営計画の預り資産目標



トライアングル・ピラミッド経営とは

いちよし証券は「トライアングル・ピラミッド経営」を推進しております。リサーチをベースにした、個人部門、法人部門、サポート・商品部門の正三角形4面体をバック部門という土台が支えることにより、各部門および関係会社の機能

をいちよしの総合力として最大限に発揮させることを目的とした経営スタイルです。さらに各部門のコ・ワーク（共同業務推進）によるシナジー効果により、お客様により良いサービス、より良い情報、より良い商品を提供してまいります。

個人部門

個人のお客様のニーズを的確に捉えたご提案・サービスにより、金融資産運用についてのアドバイス活動を行っております。

リサーチ部門

<株式会社いちよし経済研究所>
中小型成長企業の株式に特化したリサーチや情報収集を行っております。

バック部門

トライアングル・ピラミッド経営の土台をしっかりと支える本社・本部機能で企画や効率的な事務処理、コンプライアンスチェックなどによるサポートを行っております。

サポート・商品部門

お客様サポートと当社のアドバイザーが提供する金融商品やアドバイス活動のサポートを行っております。

法人部門

国内中堅企業、国内外機関投資家向け資産運用に関するサービスや中堅企業を中心とした投資銀行ビジネスを行っております。

いちよしアセットマネジメント株式会社

機関投資家に対して投資一任・助言業務を展開しております。投資信託に対し中小型株に関する助言業務にも力を入れております。

いちよしビジネスサービス株式会社

顧客企業の収益向上・経費削減のためのサービスを提供しております。業務のアウトソーシング等も請け負っております。

関係会社の紹介

社名が変わりました(平成24年5月1日に商号変更いたしました) いちよしアセットマネジメント株式会社(旧いちよし投資顧問株式会社)

いちよしアセットマネジメント株式会社は、いちよしグループの一員として主に、機関投資家、投資信託に対する投資一任・助言業務を展開する資産運用会社です。



いちよしグループは長年にわたり中小型、新興成長企業群の徹底したボトムアップリサーチに注力して参りました。いちよしアセットマネジメント株式会社はいちよしグループの中小型、新興成長企業発掘・運用ノウハウを結集したアセットマネジメントビジネスを展開しております。

一貫した投資哲学と運用スタイル、明快な運用プロセスによりお客様のニーズを踏まえ、満足度の高いパフォーマンスを追求するとともにコンプライアンスの徹底、厳格なディスクロージャーによりお客様にとってなくてはならない確固たる存在感のある運用会社を目指してまいります。

■ 投資一任業務

いちよしアセットマネジメント株式会社は、お客様との投資一任契約に基づき、お客様の資産運用を行います。

投資一任契約とは、お客様が当社に対して、金融商品の価値等の分析に基づく投資判断の全部または一部を一任するとともに、当該投資判断に基づきお客様のため投資を行うのに必要な権限を委任する内容の契約を指します。

■ 投資助言業務

投資助言業務とは、お客様との投資顧問(助言)契約に基づき、お客様に対し金融商品への投資判断について助言を行います。投資の意思決定についてはお客様自身が行います。

純資産額

(2012年3月末現在)

	東日本復興応援株式ファンド 追加型投信／国内／株式 設定・運用／BNYメロン・アセット・ マネジメント・ジャパン	129億円
	いちよし中小型株リカバリー・ ファンド(限定追加型) 追加型投信／国内／株式 設定・運用／三井住友アセット マネジメント	19億円
	いちよし・インベスコ中小型 成長株オープン 追加型投信／国内／株式 設定・運用／インベスコ投信投資顧問	146億円
	いちよしグロース1 追加型投信／国内／株式 設定・運用／BNYメロン・アセット・ マネジメント・ジャパン	27億円
	いちよし公開ベンチャー・ ファンド 追加型投信／国内／株式 設定・運用／国際投信投資顧問	12億円

いちよしのCSR(企業の社会的責任)

私たち、いちよし証券は社会に貢献することが企業の社会的責任であると考えております。そこで、当社の収益の一部や役職員による定期的な寄付活動、さらに『いちよしポイントサービス』を通じて、お客様にもご希望の団体への寄付をしていただけるような仕組みを構築しております。

**悲惨な環境下で苦しむ人々に、
医療支援を！**



医療 NGO 世界の医療団
(メドゥサン・デュ・モンド)

**地球環境と
人々の暮らしを守る！**



国際環境 NGO FoE Japan

盲導犬の育成を応援しよう！



公益財団法人 日本盲導犬協会

広がる未来を途上国の子どもたちへ！



公益財団法人 プラン・ジャパン

生きている地球、緑溢れる街創りを！ やさしい心を広げたい！



公益財団法人 森林文化協会



あしなが育英会

“二代目いちよし盲導犬”が デビューしました。

当社は、2005年度から「公益財団法人日本盲導犬協会」への支援活動を継続的に行っています。

2009年度からは“いちよし盲導犬”の育成にも取り組んでおり、初代の「オルテガ」は2010年3月に盲導犬としてデビューを果たしました。

そして2012年3月、オルテガの後を引き継いで“二代目いちよし盲導犬”となった「カリテ」が見事デビューを果たしました。

当社はこれからも、いちよし盲導犬の育成に注力してまいります。



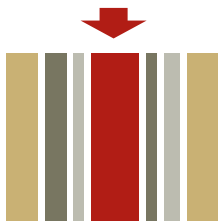
プロフィール

- 生年月日 2009年2月23日
- 犬種 ゴールデン・レトリバーと
ラブラドル・レトリバーのミックス
- 性別 オス
- 性格 温厚かつ愛嬌がある

会社概要(単体)

会 社 名	いちよし証券株式会社 (証券コード: 8624) Ichiyoshi Securities Co., Ltd.
創 立	1950年8月18日
本 社 所 在 地	東京都中央区八丁堀二丁目14番1号
代 表 者	取締役(兼)代表執行役社長 山崎 泰明
電 話	03-3555-6210(代表)
資 本 金	145億77百万円(2012年3月末現在)
純 資 産	232億98百万円(2012年3月末現在)
自己資本比率	70.1%(2012年3月末現在)
従 業 員 数	856名(2012年3月末現在)
支 店 数	46店舗(2012年3月末現在)

一人、一人の、「いちばん」でありたい。



当社のロゴ・社章

株式事務のご案内

事 業 年 度	4月1日～翌年3月31日
期 末 配 当 金 受領株主確定日	3月31日
中 間 配 当 金 受領株主確定日	9月30日
定 時 株 主 総 会	毎年6月
株主名簿管理人 特 別 口 座 の 口 座 管 理 機 関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 Tel. 0120-232-711(通話料無料)
上 場 金 融 商 品 取 引 所	東京証券取引所市場第一部 大阪証券取引所市場第一部
公 告 の 方 法	電子公告により行います。 公告掲載URL http://www.ichiyoshi.co.jp/ (ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)

ご 注 意

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきまして、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてでもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

IRカレンダー

4月	● 本決算発表
5月	● 期末配当金お支払い開始
6月	● 定時株主総会
7月	● 第1四半期決算発表
8月	
9月	
10月	● 第2四半期決算発表
11月	● 中間配当金お支払い開始
12月	
1月	● 第3四半期決算発表
2月	
3月	

ホームページのご紹介

当社はホームページを開設しております。決算情報や各種IR資料を掲載し、皆様からのアクセスをお待ちしております。



<http://www.ichiyoshi.co.jp/>

いちよし証券には、10数年来ずっと守り続けている「個人のお客様向け商品についての原理原則」があります。それがお客様との信頼関係構築につながると考えています。

“売れる商品でも、売らない信念。” 「いちよし基準」(10数年来実施)

- 公募仕組債は取り扱いません。
- 債券は高格付けのみとし、不適格債は取り扱いません。
- 私募ファンドを取り扱いません。
- 個別外国株は、勧誘しません。外国株は投信での保有をお勧めします。
- 投信運用会社は、信頼性と継続性で選びます。
- 先物・オプションは勧誘しません。
- FX(外為証拠金取引)は取り扱いません。

